

令和8年度 近畿中学校総合体育大会における熱中症対策について

競技名	1 選手・審判等競技役員に対して	2. 観客・応援者に対して	3. 大会本部	4. 大会運営方法について対策
軟式野球	◆選手、審判、選手補助員の水分補給を含めた休憩時間を3・5回に入れ、延長戦に入った場合も適宜入れるようにする。 ◆試合間に散水する ◆各チームに経口補水液(500ml×2本)を支給	◆場内アナウンスで呼びかける ◆吹奏楽の応援等は極力控えてもらう	◆冷房のある休憩室の確保	◆屋根付きの座席への移動を促す
ソフトボール	◆攻守交代を急がすのではなく、ランナーに出ていた選手に給水をさせる。 ◆延長は、1. 5イニング1回の給水タイム ◆打者一巡もしくは同一チームが20分程度の守備をした時点で、3分間の給水タイムを設ける ◆3回表、5回終了時に2分間の給水タイムを設ける	◆会場に熱中症予防のための給水を促す貼紙を多く設置する ◆着帽、給水に関するアナウンスを行う	◆スポーツドリンク、経口補水液(OS1)、氷等を準備 ◆冷房のある部屋を救護室として準備 ◆冷房のある休憩室を確保	◆開会式は、簡素化して行う。(入場行進はなし)
バレーボール	◆空調設備のある施設を使用する ◆日本中体連バレーボール専門部が示す「給水のためのタイムアウト」を採用し、試合中の選手・役員の水分補給と休息時間を確保する。空調設備の有無にかかわらず採用する。 ◆役員控室に水分を準備	◆常に観客や応援者に対しては、放送で給水の呼びかけを行う	◆冷房のある控室を確保する ◆控室には、スポーツドリンクを始め多くの種類の飲料や、熱中症対策用の飴等を準備する ◆水分補給、熱中症対策の飴などを控室に準備	◆空調設備のある競技施設を必ず使用できるようにする
バスケットボール	◆空調の効いた体育館での大会実施を行う。 ※バスケットボールの試合は、1クォーター(Q)8分間の4Qで実施され、1Qと2Q及び3Qと4Qの間に2分間のインターバル、2Qと3Qの間に10分間のハーフタイムがあり、なおかつ、1分間のタイムアウトを前半2回、後半3回とることができる。1試合の時間は約70分になるが、その間、最低3回、最高8回の水分補給と休息をとることができるため、原則としては、会場に空調を入れる対処で対応できると考えている	◆空調の効いた体育館での大会実施を行う	◆空調の効いた体育館での大会実施を行う	◆ゲーム終了後のミーティング時や観客席での応援生徒など、競技以外の場面で、熱中症の症状を訴える参加者が発生すると考えられるので、出場選手、応援生徒、保護者等に注意していただくよう、チーム関係者に依頼することを考えている

競技名	1 選手・審判等競技役員に対して	2. 観客・応援者に対して	3. 大会本部	4. 大会運営方法について対策
サッカー	◆3日間単純トーナメント開催で、試合をできるだけ気温等が上がりきらない午前中に行う ◆気象条件によって、前後半それぞれでクーリングブレイクを2回摂る場合がある ◆JFA制定の熱中症対策ガイドライン 20240524版に準じて実施する	◆出場の各校に事前に、選手、応援の生徒、保護者に対して万全の熱中症対策の指導をするようお願いしておく。まずこれが万全の策と考える ◆合間に放送にて注意喚起を行う	◆WBGT計の設置と活用 ◆看護師の配置 ◆出場各チームに、チーム用(選手と顧問用)のテント1張りを設置する	「1 選手・審判等競技役員に対して」を参照 ◇WBGT値によっては、試合の中断、中止をすることがある。その場合、予備日を使用し、消化できていない試合を行うことがある
ハンドボール	◆エアコンを使用する予定 ◆待機場所にもエアコン使用 ◆看護師配備ともしものための、OS1等の準備	◆エアコンを使用予定 ◆館内放送での給水呼びかけ ◆看護師配備ともしものための、OS1等の準備	◆エアコンを使用予定	◆空調の効き具合など応じて競技を中断して、給水タイムを設ける
ソフトテニス	◆試合間のインターバルを15～20分程度確保。気候によってはさらに長いインターバルをとることもある。 ◆給水タイミングを従来のルールで許可されている時間帯以外にも設ける。 ◆選手、監督とも団体ベンチでの日傘の使用を認める。 ◆審判役員については、給水しながら行うことを徹底。役員をたくさん確保し、余裕をもったシフトで行えるようにする。 ◆着帽の指示 ◆アンダーウェア、ロングアンダータイツの着用可	◆応援生徒については、着帽・水分補給などの対策を顧問から徹底指導するとともに、放送で全体にアナウンスする。 ◆状況によっては、応援を禁止することも検討する。 ◆本部の救護体制(看護師・養護教諭の配置など)を放送でアナウンスする。	◆冷房のある救護室・休憩室をできるだけ確保する。 ◆氷、水分、補水液などを十分な量確保する。 ◆看護師を配置する。	◆団体戦の試合方式において、1面で進行するのではなく、できるだけ2面展開の方法を採用し、選手団がコート内にいる時間を短縮できるようにする。 ◆状況によっては3面展開も検討する。 ◆団体戦を予選リーグ方式からトーナメント方式への変更の継続 ◆団体・個人ともに「ヒートルール」を適用する。(ファイナルゲーム前のインターバルは3分) ◆ホース散水によるミストコーナー設置 ◆個人戦を予選リーグ方式からトーナメント方式への変更
卓球	◆基本、エアコンが効いているので、必要はないと思うが、体育館内の様子を見ながら、放送や会場委員による給水のよびかけをする場合もある ◆監督会議等での注意の呼びかけを行う	◆基本、エアコンが効いているので、必要はないと思うが、体育館内の様子を見ながら、放送や会場委員による給水のよびかけをする場合もある ◆監督会議等での注意の呼びかけを行う	◆基本、エアコンが効いているので、必要はないと思うが、体育館内の様子を見ながら、放送や会場委員による給水のよびかけをする場合もある ◆監督会議等での注意の呼びかけを行う	◆エアコンの設定温度を下げる
バドミントン	◆開会式・監督会議での呼びかけを行う ◆体育館に空調を入れての大会運営なので、特別な対応はしない。 ◆選手はルールで試合途中のインターバルで給水が認められている。	◆開会式での呼びかけを行う。 ◆体育館に空調を入れての大会運営なので、特別な対応はしない。	◆体育館に空調を入れての待機あ運営なので、特別な対応はしない。 ◆役員控室なども空調を入れる。	◆体育館に空調を入れての大会運営なので、特別な対応はしない。 ◆役員控室なども空調を入れる。

競技名	1 選手・審判等競技役員に対して	2. 観客・応援者に対して	3. 大会本部	4. 大会運営方法について対策
陸上競技	【選手・役員】 ◆放送による注意喚起 ◇冷房がかかる待機所を準備 【役員】 ◆競技役員控室に冷房・給水グッズ・対策飴・タブレットの準備 【生徒役員】 ◆帽子着用 ◆こまめに水分補給をうながす ◇冷房がある待機所を準備	◆放送による気象条件の連絡・注意喚起 ◇冷たい飲み物の販売所を案内	◆競技役員に同じ ◆冷房のある部屋の準備、体温計、血圧計、経口補水液などの準備、医務の先生方の確保 ◆医務室を1箇所準備 ◇医療トレーナーを複数名配置	◆3000mでの給水を行う、2箇所給水テーブルをバックストレートに設置。 ◆昼間に休憩時間として、競技を1時間空けている。 ◇800m以上の距離で、競技時間を朝の早い時間に実施する ◇800m競技の決勝を廃止し、タイム決勝にする ◇招集場を冷房の効いた屋内にする(または、招集後の控室は冷房が効く部屋とする) ◇ゴール付近にミストを設置する ◇テントの設置を増やし、練習会場を含めて日陰を確保する
水泳競技	◆会場の空調(エアコン)を利用する ◆場内警備員が体調管理を呼びかける ◆場内アナウンスで呼びかける ◆審判員にお茶、スポーツドリンクを準備	◆場内警備員が体調管理を呼びかける ◆場内アナウンスで呼びかける ◆館内の巡視	◆会場の空調(エアコン)を利用する ◆体温計、血圧計、補水液、スポーツドリンク等を準備する ◆養護教諭が待機する ◆水分補給を勧める館内アナウンス	◆会場が屋内であり、空調(冷房)を利用することから、例年と同様の大会運営ができると考えている
剣道	◆会場内の冷房施設の使用 ◆選手・審判・役員・生徒役員への水分補充や休憩時間の確保 ◆監督会議等での熱中症対策の注意喚起	◆館内放送での熱中症対策の注意喚起 ◆冷房施設の使用 ◆注意喚起の館内放送	◆冷房のある休憩室を確保 ◆体温計、血圧計の準備 ◆補水液、スポーツドリンク等の用意 ◆養護教諭の準備 ◆救護室の設置	◆連続試合にならないように、運営 ◆試合間の時間の確保 ◆延長戦が長く続いた場合の対応(給水時間の導入) ◆試合進行の変更 女子個人→男子個人⇒男女決勝。女子団体→男子団体→男女決勝
柔道	◆会場内の空調を使用 ◆給水の呼びかけ定期的にする ◆休憩時間の確保する ◇減量後の選手は、脱水症状を起こしやすいため、計量終了後から適切な補給を行えるよう、補給場所や指導を徹底する	◆会場内の空調を使用 ◆給水の呼びかけを定期的にする ◇観客席の過密を防ぐため、観客席の最前列を「現在試合を行っている選手の応援専用座席」と指定する	◆会場内の空調を使用 ◆会場内で水分補給の呼びかけを定期的に行う ◇熱中症発症に備え、経口補水液(OS-1等)や冷却用シャワーを準備し、医師との連携を迅速化する	◆空調を適切に整え、関係者(選手、保護者、応援者、競技役員、大会役員)への水分補給の呼びかけを定期的に行う ◇WBGT値を定期的に測定し、基準を超えた場合は、休憩時間や競技の中断を柔軟に判断する
相撲	◆水分補給を行う ◆保冷剤の確保も行う ◆選手の疲労度を見ながら、適宜休息の時間を確保する	◆放送により、給水の呼びかけを行い、観戦中に熱中症の発症が疑われる場合は、本部にて給水や冷却の応急処置を施す	◆熱中症計を設置し、情報収集 ◆体温計や血圧計、補水液・スポーツドリンクの用意を行う	特になし

競技名	1 選手・審判等競技役員に対して	2. 観客・応援者に対して	3. 大会本部	4. 大会運営方法について対策
体操競技	◆エアコン使用による会場の温度調整 ◆こまめな水分補給のアナウンス ◆熱中症の注意を呼びかけ、水分補給のアナウンスをする	◆エアコン使用による会場の温度調整 ◆こまめな水分補給のアナウンス ◆熱中症の注意を呼びかけ、水分補給のアナウンスをする	◆エアコン使用による会場の温度調整 ◆スポーツドリンク等の準備	◆エアコンのある休憩室の確保
新体操	◆水分補給への呼びかけを放送でアナウンスする	◆放送で水分補給の呼びかけを行う	◆会場が体育館のため、冷房を入れ、看護師の準備をする	◆競技の性質上、この時期の大会は、体育館の冷房が必至である。必ず冷房費が出せるよう、予算を考えて頂きたい。 ◆アナウンス ◆休憩室の確保を行う
テニス	◆休憩用テントの確保 ◆本部は冷房を確保 ◆選手への注意喚起を放送でアナウンス ◆看護師が常駐していることをアナウンス。 ◆コート面数を増やして試合進行を早める	◆熱中症の注意喚起を放送でアナウンス	◆冷房のある休憩室を確保 ◆看護師が常駐	◆単複重複不可にしたため 一人あたりの試合数が減った ◇ノーアド、ノーレットルール
ホッケー	◆大会本部に経口補水液等を準備 ◆試合時間の変更(クウォーター制の導入) ◆ボールサーバーの配置数を必要最小限にする ◇選手への注意喚起を放送でアナウンス	◆放送による注意喚起	◇冷房のある休憩室を確保 ◆看護師が常駐	◆冷房の入る部屋を救護室として確保 ◆クウォーター制を導入し、給水時間を確保する ◆開閉会式の簡略化